backlog by nulab 導入事例集

タスク管理でDX推進編

nulab

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

導入事例｜CASE 01

株式会社桐井製作所

DX推進に欠かせないツール。
業務の見える化により工数が大幅削減



株式会社桐井製作所はメーカー兼内装に関連する幅広い資材を取り扱う商社として、全国各地で工事を手がける顧客に応じた多様な製品を提案・提供しています。 そんな同社の受注業務を担うサポートセンターで2021年6月からBacklogを導入。
DX化への足掛かりとも言える『クラウドFAXプロジェクト』でBacklogをご活用いただいています。

業　　種：建築用建材メーカー兼商社
利用部門：サポートセンター、情報システム部門、営業本部、総務部、DX推進部門

	Backlog 導入前	Backlog 導入後
DXプロジェクト	■ 課題のステータスが分かりづらく、作業漏れが発生していた ■ リアルタイムの情報共有ができておらず、確認や更新作業の工数が増加	■ 進捗状況が分かるようになり、確認工数が大幅に削減 ■ 打ち合わせの回数・所要時間の減少。時間に余裕ができたことで、開発への提案が活発化
その他の効果	■ プロジェクト業務で誰がどの程度のタスクを抱えているかわかっていなかった	■ 「誰が」「どのくらいの作業量・タスク」を抱え「どのくらいの成果」を上げているのかを可視化できた。

1964年の会社設立以来、内装用鋼製下地材を中心とした建材製品の製造・販売を行なう。地震対策用の「耐震天井」を開発したパイオニアでもあり、内装建築業界のトップ企業として知られている。メーカー兼商社として製品の開発・製造・販売・物流までを自社内で行う。

100年の安心に、こたえる
KIRII

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

“作業もコミュニケーションもスムーズになり進捗報告会議の時間が半分になりました”





担当者、進捗状況、期限日などを選ぶだけで使えるシンプルなUIが導入の決め手

——— Backlog導入前は、どのような問題が起きていましたか？

お客様からいただくFAXでの受注作業をクラウド化し業務効率化を実現、弊社のDX化へのもととなった『クラウドFAXプロジェクト』でBacklogを使い始めました。本プロジェクトを一緒に進める開発会社との連絡ツールとして活用しています。

Backlog導入前、弊社側のコミュニケーションは電話やチャット、課題管理はスプレッドシートで進めていました。そのため、着手した課題、期限切れしている課題などのステータスが分かりづらく、作業漏れが発生することもあり、リアルタイムかつ最新の情報を共有しにくいという問題を抱えていました。そんな背景から弊社のプロジェクトメンバーと開発会社双方で、タスク管理を定量的に報告・管理・共有できるITツールが必要だと考えていました。

——— 課題はBacklog導入後にどのように改善されましたか？

まず、「課題管理面」では、ガントチャートの活用により進捗状況が視覚的に分かりやすく、確認工数が大幅に削減できました。Backlogはコメント入力した時点で自動的に担当者にメールを送信してくれるので、課題の滞留がなくなり、進捗管理も容易になりました。

次に「コミュニケーション面」で混乱が起きなくなりました。Backlogは課題のスレッドで履歴を追えるので、複数の課題を平行処理してもやりとりが錯綜しません。また、打ち合わせの回数・所要時間が減る＝作業効率化も図れたことはとても大きいです。

——— Backlogの活用で時間が有効に使えているのですね。

人事評価についてもBacklogは一役買ってくれています。プロジェクトにかかわるメンバー全員が、基本業務＋クラウドFAXプロジェクトの兼務です。

今までITプロジェクトに取り組んでいなかった弊社では、作業・課題をタスク単位まで分解し定量的に管理するというアプローチ自体が行われていませんでした。

Backlogの導入によってメンバーの抱えている仕事の量や重さ、外部パートナーとのやり取りの様子などが管理職からメタな視点で把握しやすくなったのです。

その結果、一人ひとりの仕事量や成果が「見える化」されました。事業会社におけるDX上の大きな適応課題である”人事評価のしづらさ”が改善されたことはとても有意義な導入効果です。

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

導入事例｜CASE 02

ダイヤ工業株式会社

老舗医療用品メーカーのDX戦略にBacklogを活用！
エクセル管理からの脱却



ダイヤ工業株式会社ではDXに向けた取り組みを行う上でプロジェクト・タスク管理ツールとしてBacklogを導入しました。個人で管理されるタスクは進捗状況が見えにくく、チーム間のみならずプロジェクト内でも連携が取りにくい状況から、導入後は部門やチームを越えた連携がしやすくなり、プロジェクトの動きが円滑に進むようになったということです。

業　　種：医療用品メーカー

利用部門：全社で利用

	Backlog 導入前	Backlog 導入後
DXプロジェクト	■ チーム全体の状況が見えにくい ■ エクセルのタスク管理では更新が滞りがちだった	■ チーム全体のタスクが「見える化」され、優先度に応じた対応ができるように ■ Backlogを見に行けば誰でも最新情報がわかるようになった
その他の効果	■ 業務が属人化し、部門間だけでなくチーム内での連携もしづらい状況だった	■ 部門ごとの状況が明確になり、会議を行う際も事前情報がわかっているのでスムーズに進行するようになった

ダイヤ工業は創業60年の医療用品メーカーです。研究開発、設計、製造、販売まで自社で一貫して行っている。

同社が目指すのは「健康」の提供ではなく、「健康だから○○できる」という健康のその先にある楽しみを提供すること。

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

“部署間の業務遂行やチーム連携がとてもうまくいくようになりました”





DXプロジェクトの目的はWikiに記載していつでも参照できるようにしておくことで、プロジェクト本来のゴールを見失わずに進められる。

――― Backlog導入前は、どのような問題が起きていましたか？

当社の事業、DXを見据えた上での現状課題の把握、そのギャップ分析からIT戦略を練り、実現に向けて施策の策定をするITGDプロジェクトでBacklogを活用しています。

プロジェクトの進捗管理は、エクセルでタスク・スケジュール管理を行っていました。担当者やプロジェクトチームごとにフォーマットが異なっていたため、フォーマットに慣れるまで時間がかかったり、それぞれ自分のタスクしか認識していない状況も起こり得る状態でした。エクセルなどの場合、管理する煩雑さから一部の人しか使わなくなってしまい、結果として全体のタスクの見える化が出来ないままになっていた事もありました。

――― 課題はBacklog導入後にどのように改善されましたか？

全社共通で言えることは、タスクの「見える化」ができるようになったことです。担当者に聞かないとわからない状況から、Backlogを見れば誰でもわかる状態に変化しました。Backlogでは担当者や更新履歴が自動的に記録されますし、優先度に応じたタスクがひと目でわかるので、対応するスピードも向上しました。

Backlogの活用によりメンバーそれぞれの考えを共有できたこと、そしてタスクの進捗状況がリアルタイムで確認できるようになったことで、部門を横断しての連携がスムーズになりました。Backlogに登録したタスクを完了にすると目に見えてタスクが減っていくので、前進していると実感を持てることも良いと思います。Backlogをプラットフォームとすることで、プロジェクト全体の動きが良くなりました。

また、営業部門では、Backlogを活用してお客さまからのお問い合わせやお約束事を一覧化しています。チーム全員がすべてのお問い合わせの進捗を見に行ける仕組みを構築できたので、業務の割り振りもスムーズになりました。

――― Backlog活用によるメリットはどのような点にあるとお考えですか？

Backlogは汎用性が高く、かつどのような業務にも活用できる柔軟性があります。その中でもとくに当社では、部門を横断するプロジェクトや、テレワークのメンバーがいる部署でBacklogのメリットをより強く感じました。

部門ごとの状況が明確になり、会議を行う際も事前情報がわかっているのでスムーズに進行していくように思います。

※今後Backlogでは、「Wiki」で提供しておりましたナレッジ共有機能を「ドキュメント」に集約してまいります。詳しくはこちらをご覧ください。

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

導入事例｜CASE 03

経済産業省

経済産業省が事務作業を3分の1削減！
行政手続オンライン化の一翼を担う



経済産業省大臣官房デジタル・トランスフォーメーション室では、2018年7月の部署立ち上げ当初からBacklogをプロジェクト管理の標準ツールとして導入。ベンダーや関係部署とのやりとりをメールで行い、コミュニケーションコストがかさんでいたが、導入後はメールの情報整理や検索に費やす時間が劇的に減り、事務作業の時間が3分の1まで減少した。

業　　種：官公庁

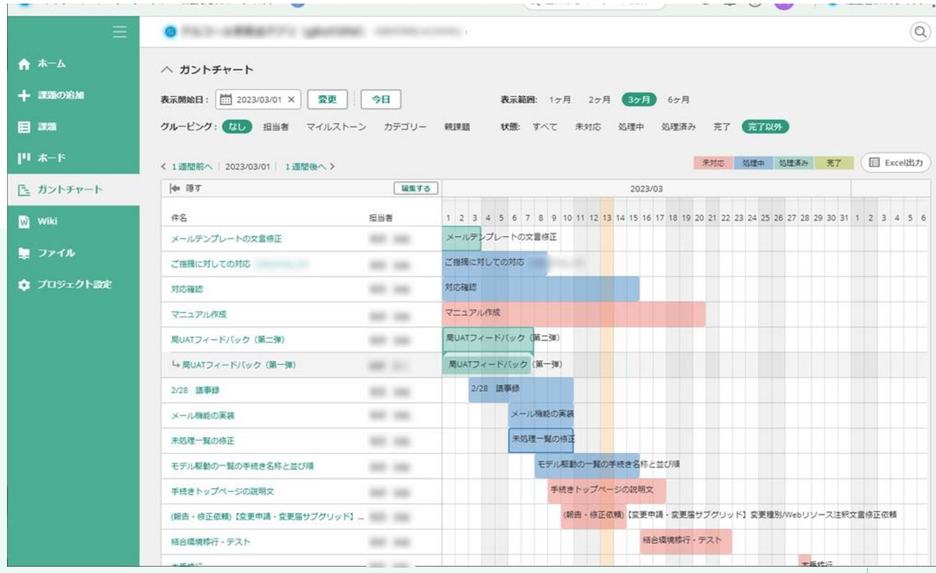
利用部門：デジタル・トランスフォーメーション室

「国民と行政、双方の生産性を抜本的に向上する」ことを目指す、経済産業省大臣官房デジタル・トランスフォーメーション室。「Gビズフォーム」をはじめとした行政サービスのオンライン化、省内のデジタル化等、さまざまな行政のDXに日々取り組んでいる。

	Backlog 導入前	Backlog 導入後
DXプロジェクト	■ ベンダーとのやりとりをメールで行い、コミュニケーションコストがかさんでいた ■ 課題管理表をファイルでやりとりしていたためリアルタイムの情報共有が難しかった	■ メールの情報整理や検索に費やす時間が劇的に減り、事務作業の時間が3分の1まで減少 ■ リアルタイムで情報共有が可能に。対面の打ち合わせは必要最小限にしながらプロジェクトをスムーズに進行
その他の効果	■ コロナ禍でテレワークが導入され、対面よりも丁寧な情報共有が必要だった	■ オンライン会議の際、Backlogのガントチャートを画面共有することで、必要な情報をリアルタイムに確認できる

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

“プロジェクトの円滑な進行にBacklogが役立っています”





会議での進捗確認はBacklogのガントチャートを画面共有しながら行う。会議資料を作らなくて良いので業務効率化に一役買っている。

——— Backlog導入前はどのような課題がありましたか？

DX室では事業者向けの行政手続のオンライン化システム「Gビズフォーム」の開発プロジェクト（以下、Gビズフォームプロジェクト）を制度所管課室と連携して推進しています。その中で、外部ベンダーも交えた3者間のコミュニケーションをいかに円滑に行うかが課題でした。

省内のコミュニケーションツールは省外とのやり取りに制限があり、ベンダーとのコミュニケーションはメールに集中してしまう。その結果、各ベンダーから送られてくるプロジェクトに関する大量のメールを処理する必要が出てきてしまいました。

——— 課題はBacklog導入後にどのように改善されましたか？

7〜80にも及ぶプロジェクト管理をBacklogに統一し、得られた効果は主に3つです。1つ目は「事務作業の効率化」。Backlogでは立ち上げた課題、つまりタスクを軸に会話が進んでいくので、別のタスクに関する情報が混在することもなくなりました。メールの情報整理や検索に費やす時間も劇的に減り、今まで費やしていた事務作業の時間が3分の1まで減少しています。

2つ目に、「リアルタイムでの情報共有が可能になった」こと。DX室では、制度所管課室、そして外部ベンダー間で膨大なファイル数が飛び交うので、バージョン管理が煩雑になりがち。タスクに紐づけた状態でファイル情報を一元管理できるBacklogだからこそ、データの散逸・多重管理を防げます。

3つ目は、「コミュニケーションコストが削減できた」こと。コミュニケーションを効率的に行えることで、短期間に設計・開発、テスト、リリースといったサイクルを回せるようになりました。

——— 円滑なテレワークにもBacklogが役立っているとか？

経産省ではコロナ禍以降さらにテレワークする職員が増え、オンライン会議が増加しています。DXチームのオンライン会議の際、Backlogのガントチャートを画面共有することで、必要な情報をリアルタイムに確認しながら仕事を進めています。チームメンバーが一堂に会する場で、必要に応じて直接Backlog上のタスクを完了することもできますし、その瞬間をメンバー全員が確認しながら進められるため、わざわざ会議資料を作成する必要もありません。つまり、Backlogというツールがそのまま会議資料になるんです。これは業務効率化における大きなメリットだと思いますね。

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

オンラインセミナー・トライアルのご案内

本資料をご覧いただき、メールや電話などのコミュニケーション課題を解決したいと考えた方は
是非、Backlog の無料オンラインセミナーや無料トライアルをご利用ください



オンラインセミナーの概要

- ☑ プロジェクト・タスク管理のBacklogとは？
- ☑ Backlogでどんなメリットがあるの？
- ☑ 実際のBacklog画面を見ながら利用シーンを紹介

開催スケジュールはこちら



トライアルの概要

- ☑ 30日間無料で利用できる
- ☑ フォームに情報を入力すると、すぐに開始
- ☑ プランの全機能が使える

無料トライアルはこちら

サービスページはこちら

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

会社概要

社名	株式会社ヌーラボ
設立	2004 年 3 月
事業内容	チームのコラボレーションを促進するサービスの開発・提供 ● プロジェクト・タスク管理ツール『Backlog』 ● オンラインホワイトボードツール『Cacoo』 ● ヌーラボ製品のセキュリティ＆ガバナンスを強化する『Nulab Pass』 ● ワークフロー自動化ツール『Nulab Flowbase』
本社	福岡県福岡市中央区天神一丁目 11 番 1 号

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.